

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

漁港斜路の海藻植生に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 博之 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2251

[課程博士] (博士論文審査及び最終試験の結果要旨)

氏 名：田中 博之

論文題目：漁港斜路の海藻植生に関する研究

博士論文審査：

学生から提出された論文について、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返さされ、漁港斜路の海藻植生に関して、国内で初めて全国各地に遍在する漁港の斜路の植生を明らかにし、植生の変更要因を示すとともに、公開空撮画像による植生確認を試み、藻場や磯焼けの普及啓蒙の機会を飛躍的に増大させた論文として好評を博した。

本研究の概要は以下の通りである。

第1章は研究の背景の総述で、藻場の重要性、磯焼け、藻場の回復やモニタリングの現状や問題点に加え、水産業の拠点として重要な漁港と植生に関する知見が総述されている。

第2章では、国内（本土）各海域の斜路について、漁港斜路に出現する主な海草・海藻と分類群別の生育状況、植食動物、帯状分布、磯焼けのほか、北部太平洋、瀬戸内海、日本海、中部太平洋、西部太平洋の海区毎の植生について、現地調査の結果が報告された。

第3章では、斜路植生に影響を及ぼしうる構造と要因として、食害のほか、砂の堆積、転倒防止マット、海藻の採取など負の影響、河川水・用水の流入、湧水、波浪などが正の影響、凹凸基質（滑り材、ブロックの穴・間隙）は正負いずれの影響も与えることを示した。

第4章では、公開空撮画像（Google Earth）利用のメリット、スケールとしての滑り材、海區別の鮮明画像の割合、経年変化や季節変化の確認例、画像解析による藻場識別例などが示された。

第5章では、千葉県を例として、全漁港の斜路の植生のデータベース作成が作成され、県沿岸（東京湾奥から利根川河口まで）のうち、富津岬から大東岬の漁港斜路の植生が豊かで、このうちの2港におけるモニタリングの例が示された。

第6章では、以上の結果に基づき総合考察が行われ、残された課題を指摘しながら、漁港の斜路における藻場を活用した普及啓蒙や今後の展開に向けた提案がなされている。

これらの成果は、今後水産学分野のみならず、基礎生物学の発展にも大きく貢献する優れた研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された論文は、十分博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

最終試験の結果要旨：

最終試験は8月20日に行われた。審査委員一同出席の下、まず、学術論文1編が第1著者として執筆され、公表済（田中・藤田, 2020、[Algal Resources 13, 47-53](#)）であるとともに、講演発表は国内学会を2回行っていることを確認した。さらに、合同セミナーへの出席回数も60時間を越えていることを確認した。

提出された博士論文や投稿論文は日本語で書かれているが、勤務先の独立行政法人国際協力機構において複数回の海外赴任（1～3年）の実績があり、英語での公務の実績が豊富にあることから、語学については問題ないと判断した。また、申請者に対して、論文内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識についても、公開発表会（8月20日）当日の質疑や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。

大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認した。

以上から、申請者について論文審査、最終試験とも合格と判定した。